

第 115 回 奈 良 医 学 会 記 事

平成 6 年 10 月 29 日(土)

会場 奈良医大臨床第 1 講義室

1) 地域保健法と地方衛生行政の課題

奈良医大衛生学教室

松田 亮三

1994 年の国会で成立した地域保健法の主な特徴は、①市町村をベースとした地域保健体制、②保健所の再編、③国による基本指針の策定である。この改正の背景には、①住民要求の高度化、多様化、②社会保障制度の転換③地方行政改革、地方分権化の流れがある。法の掲げたきめ細かな施策の実施には、人材確保や施設の整備を行うための適当な財源の保障、自治体行政全体との関連を意識した総合的な観点が課題といえる。

2) 悪性胸膜中皮腫の胸水中組織ポリペプチド抗原 (TPA) の診断的意義についての検討

奈良医大第 2 内科学教室

徳山 猛, 米田 尚弘, 濱田 薫
吉川 雅則, 夫 彰啓, 福岡 和也
山本 智生, 友田 恒一, 仲谷 宗裕
成田 亘啓

悪性胸膜中皮腫の胸水中組織ポリペプチド抗原 (TPA) の診断的有用性について鑑別が問題となる各種胸膜炎と比較検討した。悪性胸膜中皮腫症例の胸水中 TPA は良性疾患による胸膜炎に比べ有意に高かった。肺癌に伴う胸水中 TPA は悪性胸膜中皮腫と有意差を認めなかった。しかし肺癌症例では TPA 高値例全例に胸水細胞診で悪性細胞を認めたが、悪性胸膜中皮腫症例は 5 例中 4 例が細胞診陰性であった。

3) 口腔扁平上皮癌およびその前癌病変における *p 53* ならびに *ras* 遺伝子変異の検討

奈良医大第 2 病理学教室

松田 博文, 小西 登, 林 功
都築 俊英, 陶 明, 北堀 吉映
日浅 義雄

奈良医大口腔外科学教室

中橋 一裕, 桐田 忠昭, 杉村 正仁

口腔扁平上皮癌の腫瘍進展過程における遺伝子変異を検索するため、口腔扁平上皮癌とその前癌病変(異形成上皮、過形成上皮)について *p 53* ならびに *ras* の発現を免疫組織化学的染色及び SSCP-Sequence 法を用いて検討した。その結果、*p 53* 遺伝子変異は扁平上皮癌のみに認

められ、腫瘍発生進展過程の後半において変異の発生することが示唆された。また *ras* 遺伝子の口腔内腫瘍発生における関与は少ないものと考えられた。

4) 雌ラット肝におけるコリン欠乏アミノ酸食短期投与により発生する変化

奈良医大附属がんセンター腫瘍病理学教室

中江 大, 水本 靖士, 小林 永策
遠藤 武弘, 小櫃久仁彦, 岡島英二郎
真嶋 敏光, 辻内 俊文, 傳田阿由美
小西 陽一

本研究は、雌ラットにおけるコリン欠乏アミノ酸 (CDAA) 食と半合成コリン欠乏 (CD) 食投与の影響を検索した。実験は、雌ラットに CDAA または CD 食を 12 週投与し、肝の組織学的変化、細胞増殖活性、中性脂肪量、前癌病変数について検索した。CDAA 食は進行性脂肪蓄積と肝細胞壊死を、CD 食は一過性脂肪蓄積を誘発し、その他の指標は前者でより高値であった。肝前癌病変は、発生しなかった。従って、雌ラットは、CDAA 食に対して CD 食より強い感受性を示すことが判明した。

5) 本学学生のパーソナリティとストレスコーピング

奈良医大衛生学教室

藤崎 和彦

本研究は本学学生 2 ~ 4 年生計 328 名に対して 94 年 5・6 月に実施し 272 名 (83.0%) の回収を得た。本学学生の TEG パターンでみるパーソナリティは日本人に多いとされている山形と平坦型の 2 パターンが少なく、逆に NP 低位型と逆 N 型が多いのが特徴的であった。SDS 得点では平均が 42.3 点と平均的であり、51 点以上のうつ傾向が疑われるものは 11.4% とそれほど多くはなく、本学学生のストレス適応は全体としてはそれほど悪くはないと考えられる。しかしパーソナリティでストレスが溜まりやすいもの、ソーシャルサポートの弱いもの、日常的なイライラが溜まっているもの、逃避的な対処行動を取りやすいものは、うつ状態に陥りやすい傾向があることが認められた。

6) 職場のメンタルヘルス

奈良医大精神医学教室

織部 裕明, 飯田 順三, 平尾 文雄
鎌田 芳郎, 井川 玄朗

近年産業医学においては、メンタルヘルスの重要性が指摘されている。そこで企業に勤める労働者に対し、神経症傾向と抑うつ傾向を測定した。神経症傾向にはGHQを、抑うつ傾向にはSDSを用いた。

(結果) 神経症傾向と抑うつ傾向は有意に正の相関を示した。また仕事に対する満足度が高い程、接客業務が少ない程、ストレス度は低かった。今後も種々の要因とストレスの関連について調査が必要と思われる。

特別講演 I

ニコチンの中樞作用と濃度

奈良医大薬理学教室

中嶋 敏勝

タバコの主成分であるニコチンには興奮と鎮静の双方の作用が有るので、多くの人がタバコを喫煙する。そして、厚生省がモニターを依頼していた6病院からの報告の昨年度のまとめによると、子供の誤飲の半数以上はタバコである。そこで、中樞作用とくに死亡・痙攣・行動に対する影響と、脳内・血液中・各組織内のニコチン濃度について、米国医師会・喫煙科学研究財団・科研費などの基金によって研究したものの一部を発表した。

特別講演 II

顎関節症

奈良医大口腔外科学教室

杉村 正仁

顎関節症について、その背景や病態と治療についてお話し、加えて教室での研究の一部を紹介する。開口障害、顎関節疼痛、雑音、首こり、など多様な症状を持つこの顎関節症は直接的には咀嚼器官の機能不全であるが、その背景として近頃の固い物を食べなくなった世代の顎發育不全、咬合異常、咀嚼筋力の低下などが考えられる。病態については顎関節内障を中心に顎関節頭と関節円板との関係とその異常によっておこる雑音やクローズドロックのメカニズムをのべ、治療については当科における最近の顎関節鏡下手術の臨床成績を報告したい。

7) ラット肝発癌初期過程における細胞周期ブロックによる前癌病巣の増殖促進効果

奈良医大第1外科学教室

大橋 一夫, 中島 祥介, 中野 博重

奈良医大がんセンター腫瘍病理学教室

堤 雅弘, 北田 裕陸, 野口 修

小林 永策, 小櫃久仁彦, 岡島英二郎

真嶋 敏光, 小西 陽一

奈良医大総合研究施設部 RI 実験施設

森 俊雄

イニシエート細胞に細胞周期の修飾を与えることで前

癌病変の形成に及ぼす影響を検討した。[方法] 雄ラットにニトロサミンを投与後、肝臓切除で細胞増殖を誘発し、コルヒチンにより細胞周期を修飾した。Farberらの短期肝発癌モデルに従い、第5週に肝を摘出した。[結果] コルヒチン投与群で、大きな前癌病変が出現し、増殖活性は高い値を示した。以上より、発癌初期過程での細胞周期修飾は、発癌促進的に作用することが示唆された。

8) 脳髄黄色腫症3つ子例; sterol 27-hydroxylase 遺伝子変異の解析

奈良医大総合研究施設部組換えDNA実験施設

上野 聡

奈良医大整形外科学教室

高倉 義典, 玉井 進

脳髄黄色腫症(CTX)と診断された27歳の3兄弟(3つ子)例について、sterol 27-hydroxylase 遺伝子の塩基配列を決定した。その結果、441番目のアルギニンからトリプトファンへの変異をきたすCからTへの一塩基置換がエクソン8の領域に存在することが判明し3つ子患者はこの変異遺伝子のホモ接合体であり、健常な母はヘテロ接合体であった。本例は遺伝子変異を伴うCTXの新しい一亜型である。

9) 腹部鈍的外傷100例の検討—CT及び腹腔内貯留液よりみた腹部鈍的外傷の診断—

奈良医大救急医学教室

村尾 佳則, 中村 達也, 田伏 久之

宮本 誠司

平成2年5月より4年5か月間に100例の腹部鈍的外傷患者を経験した。肝、腎、脾損傷は造影CTにてよく描出された。ワイドウインドのCTの撮影条件は腸管外ガス像の検出に有用であった。腹腔内貯留液を検索する事により、消化管穿孔、脾損傷、肝損傷などの鑑別に有用であった。

10) 当科における腰部交感神経節ブロックの現況

奈良医大麻酔科学教室

橋爪 圭司, 山上 裕章, 橋本 道代

古家 仁, 奥田 孝雄

腰部交感神経節ブロックは、下肢の末梢血行改善、発汗停止、交感神経系の関与する疼痛の緩和を目的に施行される。当科では95例、134肢を経験している。傍脊椎法と経椎間板法があり、いずれもX線透視下に造影手技を用いて行う。局所麻酔薬による試験的ブロックと、神経破壊薬および高周波熱凝固法による長期ブロックがある。ブロック手技が確立された現在、侵襲の大きい腰部交感神経節切除術が必要とされる機会は稀である。

11) 顎変形症に対する外科的矯正治療の臨床統計的観察

奈良医大口腔外科学教室

俵本 眞光, 堀内 克啓, 藤本 昌紀

大儀 和彦, 稲田 育久, 吉岡 稔

杉村 正仁

顎変形症に対する顎矯正手術は, 手術術式の進歩と咬合および顔貌に対する意識の向上に伴い, 手術症例が増加している。今回, 当科において施行された顎変形症に対する顎矯正手術の概要について報告する。

12) 心筋症ハムスター BIO 14.6 の心病変進展に対する denopamine の抑制効果について—心筋 β 受容体, AC 活性および cAMP による検討—

奈良医大第 1 内科学教室

酢谷 俊夫, 坂口 泰弘, 中村 義行

松田 尚史, 舛田 譲二, 鶴田 俊介

土橋 雅行, 橋本 俊雄, 土肥 和紘

【目的】BIO 14.6(BIO)に対する denopamine(D)の効果を検討。

【方法】BIO に D を投与し, 心筋の形態学的検索と β 受容体, AC 活性, cAMP 濃度を経時的に測定。【結果】

1. D は, BIO の肥大期から拡張期への移行を抑制した。2. D は, 心筋 β 受容体密度の低下を抑制した。

3. D は, 肥大期での AC 活性と cAMP 濃度の上昇を抑制した。【総括】D は, BIO の AC 活性と cAMP 濃度の上昇, および β 受容体の低下を抑制し, 心病変進展を抑制する。

The Nara Medical Association

—115th Meeting—

(October 29, 1994)

- 1) **Public health administration under Community Health Law**

Department of Hygiene, Nara Medical University

Ryozo MATSUDA

- 2) **The diagnostic value of tissue polypeptide antigen in the pleural effusion in patients with malignant pleural mesothelioma**

2nd Department of Internal Medicine, Nara Medical University

Takeshi TOKUYAMA, Takahiro YONEDA, Kaoru HAMADA, Masanori YOSHIKAWA, Akihiro FU, Kazuya FUKUOKA, Chinaru YAMAMOTO, Koichi TOMODA, Munehiro NAKAYA and Nobuhiro NARITA

- 3) **Analysis of *p53* and *ras* gene mutations in human oral squamous cell carcinoma and premalignant lesions**

2nd Department of Pathology, Nara Medical University

Hirofumi MATSUDA, Noboru KONISHI, Isao HAYASHI, Toshihide TSUZUKI, Ming TAO, Yoshiteru KITAHORI and Yoshio HIASA

Department of Oral Maxillofacial Surgery, Nara Medical University

Kazuhiro NAKAHASHI, Tadaaki KIRITA and Masahito SUGIMURA

- 4) **Hepatopathology induced by a short-term feeding of a choline-deficient L-amino acid-defined diet in female Fischer 344 rats**

Department of Oncological Pathology, Cancer Center, Nara Medical University

Dai NAKAE, Yasushi MIZUMOTO, Eisaku KOBAYASHI, Takehiro ENDOH, Kunihiko KOBITSU, Eijiro OKAJIMA, Toshimitsu MAJIMA, Toshifumi TSUJIUCHI, Ayumi

DENDA and Yoichi KONISHI

- 5) **The relationship between the personality and the coping-style of the medical students in Nara**

Department of Hygiene, Nara Medical University

Kazuhiko FUJISAKI

- 6) **Mental health of office workers**

Department of Psychiatry, Nara Medical University

Hiroaki ORIBE, Junzo IIDA, Fumio HIRAO, Yoshiro KAMADA and Genro IKAWA

SPECIAL LECTURE I

CNS action and concentration of nicotine

Department of Pharmacology, Nara Medical University

Toshikatsu NAKASHIMA

SPECIAL LECTURE II

TMJ-pain-dysfunction syndrome (TMJ-arthritis)

Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Nara Medical University

Masahito SUGIMURA

- 7) **Disturbed of cell cycle gave growth advantage for initiated cell populations in the early phase liver carcinogenesis in rats**

1st Department of Surgery, Nara Medical University

Kazuo OHASHI, Yoshiyuki NAKAJIMA and Hiroshige NAKANO

Department of Oncological Pathology, Cancer Center, Nara Medical University

Masahiro TSUTSUMI, Hiromichi KITADA, Osamu NOGUCHI, Eisaku KOBAYASHI, Kunihiko KOBITSU, Eijiro OKAJIMA, Toshimitsu MAJIMA and Yoichi KONISHI
RI Center, Nara Medical University Toshio MORI

- 8) Japanese triplets with cerebrotendinous xanthomatosis ; genetic analysis of sterol 27-hydroxylase gene
Department of Medical Genetics, Nara Medical University
 Satoshi UENO
Department of Orthopedic Surgery, Nara Medical University
 Yoshinori TAKAKURA and Susumu TAMAI
- 9) Study of 100 cases of blunt abdominal trauma
 — Diagnosis of blunt abdominal trauma by CT and abdominal effusion —
Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nara Medical University
 Yoshinori MURAO, Tatsuya NAKAMURA, Hisayuki TABUSE and Seiji MIYAMOTO
- 10) Current status of procedure of lumbar sympathetic ganglion blockade
Department of Anesthesiology, Nara Medical University
 Keiji HASHIZUME, Hiroaki YAMAGAMI, Michiyo HASHIMOTO, Hitoshi FURUYA and Takao OKUDA
- 11) Clinico-statistical observations on orthographic surgery at the Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Nara Medical University
Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Nara Medical University
 Masamitsu HYOMOTO, Katsuhiko HORIUCHI, Masaki FUJIMOTO, Kazuhiko OGI, Ikuhisa INADA, Minoru, YOSHIOKA and Masahito SUGIMURA
- 12) Preventive effect of denopamine on myocardial damage in BIO 14.6 cardiomyopathic hamsters: Evaluation through examining β 1- adrenergic receptors, the myocardial adenylate cyclase (AC) activity and cAMP concentration
1st Department of Internal Medicine, Nara Medical University
 Toshio SUTANI, Yasuhiro SAKAGUCHI, Yoshiyuki NAKAMURA, Takashi MATSUDA, Joji MASUDA, Shunsuke TSURUTA, Masayuki TSUCHIHASHI, Toshio HASHIMOTO and Kazuhiro DOHI